

Newsletter of Catholic Omiya Church

おおみや教会通信



8月号も都合によりお休みし、ご迷惑をおかけしました。今年の夏は雨の日が多く、晴れた夜空に月や星を見ることができた日が少なかったように思います。来週9月25日は十五夜ですね。

ところで皆さんは「新月」とはどんなものかご存じですか？満月や三日月はどんなものかわかりますが、「新月を絵に描いて」と言われたら描くことができる人はどれくらいいるでしょうか。

実は私もつい最近ある本を読んでいた知りました。

『新月とは地球から見て月と太陽の方向が重なり、月の光る面が地球に向かないため、姿が見えなくなる状態のこと』です。つまり、たとえ空が晴れていても、新月は目には見えないのです。

目には見えないけれど、そこに確かにある、それを私たちは確信している。何か聞き覚えがありませんか？

そう、神様も私たちの目には見えません。少なくともこの世で生きている間は神様と面と向かって対面することは不可能です。それでも私たちは神様を信じ、神様と会話（祈り）し、神様を讃え、賛美し、様々に神様とコミュニケーションを取っています。信仰を持たない人から見るととても不思議なこともあれば、けれども、新月がこの世に存在するのと同じく、神様は存在し今も生きておられるので、改めてそのことを思い起こし、常に神様を心の中心にお迎えし、神様のみ旨に従って歩いていきたいと思えます。

信徒委員会・各部からのお知らせ

○典礼部から

主日のミサの閉祭の歌に外国語の歌を歌います。
第3日曜日：英語
第4日曜日：ベトナム語

および他言語

プロジェクトに投影する楽譜には歌詞をカタカナで表記し、わかりやすくします。少しずつ歌えるように練習しましょう。（また第4日曜日はベトナム人聖歌隊がリードします）
これに伴い、第二朗読も英語、ベトナム語になります。

○成人養成部より

9月27日（日）10時からマタイの部屋で勉強会を行います。どなたでも参加できます。ぜひご参加ください。

○子どもミサ

教会に来る子どもが増えてきたので、子どもミサを再開しようと検討中です。年明けからの予定です。詳しいことが決まり次第ご案内します。ご協力お願いします。

からの予定です。詳しいことが決まり次第ご案内します。ご協力お願いします。

○サンパウロの出張販売

毎年恒例のサンパウロの出張販売は10月下旬から11月初旬に行う予定です。日程が決まり次第お知らせします。

○カレーの会

8、9月はお休みしましたが、10月から再開します。10月11日ミサ後2階で提供します。ぜひ召し上がってください。

○青年会より

青年会が7月から大幅リニューアルし、従来の3グループを統合した新しい活動「テゼの集い」が開始します。
日時：毎月第3土曜18時
内容：テゼの祈りを中心とした分かち合い。

今後は食事会やミサ、勉強会、2ヶ月に1回程度の懇親会も計画。

対象：高校生から35歳以上メンバーの「やってみよう」を形にするグループです。興味のある方はお気軽にご参加ください！



ロザリオの祈り

入門講座が終わろうとしている頃に、シスターが「教会にロザリオで祈る『祈りの会』がありますよ。」と教えてくださいました。代母さんから贈られたロザリオを持って、早速参加しました。三人の先輩の方々に教えていただき、月一回、第一金曜日に共に祈ることになりました。司祭のために、召命のために、病者のために、又、回復されて感謝の祈りなどでした。共に祈ることによって、今まで知らなかったことを共有できて、自分を成長させてもらいました。アヴェ・マリアの祈りも、最初は「天使祝詞」と言い、「めでたし 聖寵満ち満ちてる聖マリア・・・」でした。次に重みのある「聖マリア・・・」に、今は「アヴェ・マリア」恵みに満ちた方・・・」に変わりました。祈りの方々は変わりましたが、代母の方と共に祈ったこと、今では帰天された方々と共に祈ったこと、かけがえのない時間を思い出します。私自身も就職したり、入院したり、介護したりで空白の時間がありました。長く続けてこられたことに感謝しています。

大宮区 山田

飛鳥神父様より 感謝の集いのメッセージ

レビ記19章32節でこう教えています。
「白髪の人の前では起立し、老人を尊敬しなさい」

これは単なる礼儀作法ではなく、神様ご自身が長寿と経験を重ねておられることの表れです。

年齢を重ねた皆さんは、これまでの人生の中で数えきれない知恵と経験を積み重ねてこられたと思います。

今日、敬老の日にあたり、心からおめでとございます。これからの皆様の歩みの上に神様の力と愛と知恵が注がれますようお願いいたします。これからもお体を大切に、長生きしてください。

お知らせ 子ども会より

8月14日、15日大宮教会でサマーキャンプを行いました。8人が参加し、楽しい時間を過ごし、翌日の聖母被昇天ミサでは全員が侍者を務め、飛鳥神父様から指導を受けた成果を見せてくれました。

☆リーダー手作りのサマーキャンプの記録を置きました（通信隣）ので、ご覧ください。

† サモア～主に呼ばれて～ (50) †

陸上の校内大会が終わったあとに、一応全国大会があります。国中か首都のあるサバイイ島だけなのかは、わからないのですが、高校が一堂に会して陸上大会を行います。

首都のアピア近くの学校の選手はしっかりと陸上用の運動靴を履いて、競技に参加していましたが、私の学校の生徒たちは陸上用の運動靴は用意できないので、裸足で走っていました。ですから良い記録を出すことはできません。

村の学校にくる子供たちは総じて家庭がそんなに豊かではありません。学校にはビーチサンダルで来ます。靴はもっていないでしょう。自宅に帰れば、裸足で生活している子供もいると思います。授業料が払えなくて、退学していつてしまう生徒も多いです。

ある日、出席を取っている時に、何日か続けて休んでいる生徒はどうしたのかと聞いたところ、「ヤザキに入った」とある生徒が答えてくれました。「ヤザキ」とは、日本の矢崎産業が作った現地の工場です。その工場が新規にできて、稼働するために一度に大量の求人をしたようです。その求人に応募した生徒はそのまま学校に來なくなっていました。11年生だったので、あと半年程度で卒業だったのですが、家庭の都合でしょうか、あるいはこの機会を逃すと就職が難しくなると考えたのかは分かりませんが、退学してしまいました。

義務教育は小学校までなので、授業料が払えないと退学するしかなくなってしまう。9年生で入学するときは、3クラス募集していますが、10年生に上がるときには2クラスになっています。成績が振るわないとやはりやめ

てしまう子はいます。また、授業料を滞納すると毎週月曜日の全校朝会の際に、校長先生が名前を呼びます。それが、何回か続くとはやはり退学せざるを得なくなってしまう。

私が担任していたクラスも、学年が始まった時は51名いましたが、年度が終わるまでには40人程度まで減ってしまいました。

ただ、授業料はそんなに高くないと思います。シスターやアメリカや日本政府が行っているボランティアは、無給ですし、私やカトリック関係のボランティアは学校から給料をもらっていました。週給3,000円程度です。現地採用の教員と用務員の給料は分かりませんが、さほど高くないと思います。それでも、現金収入の手段が少ないのでなかなか授業料を払えない家庭もありました。

話は前後しますが、学校としても授業料収入だけではやっていけないようで、資金集めの行事をしていました。

シバデーというのが6月にありました。「シバ」は「踊り」という意味のサモア語です。このシバデーの日は、1日授業をなしにして、学級ごとに踊りを披露します。

踊りを踊っている時に、かごを回したり、お札で作った首輪を自分の子供にかけたりします。

また、サモアの伝統的な衣装で踊るので、子供の胸の間におひねりよろしく、家族がお札を入れたりしていました。

子供がそうやってもらったお金もすべて学校の資金となります。シバデーの1か月くらい前から、生徒たちは練習を始めます。みんな歌や踊りは大好きなので、よろこんでやっています

た。私はサモアの踊りは分からないので、時々サモア人の先生に練習を見てもらい、子供たちにアドバイスしてもらいました。

どの踊りを披露するかも、生徒同士で情報交換していたのか、他のクラスとかぶらないようにしていたようです。歌いながら踊るのですが、日本の小太鼓のように、木を叩いてリズムを取りながら踊ります。リズム感が良い子がその木を叩く担当のようでした。日本では縄の人たちが踊るのが好きなので、皆さんよいリズム感で踊っていますが、あんな感じです。普段は授業が終わると早く帰りがる生徒たちも、シバデーの前は週に2、3回は30分程度残って練習していました。

当日は、校庭に生徒とその保護者が集まって行われます。8クラスあるので、生徒が350人程度、保護者も同じくらいかもう少し多いようです。母親だけでなく、おばあちゃんのような方も見かけました。家族の方たちは孫のクラスが踊りだすと、一緒に踊りながら、お札で作った首輪や花のレイを生徒の首にかけていました。ここぞとばかりにお金を出す様子には、すごいなと思いました。

見沼区 齋藤

